

防災インフラへの期待と想定外への対応

豪雨災害が、こうも度々発生し、それも数十年に一度の甚大な災害といわれてはいても、これからはあたり前になるのではなかと思われます。

これまでは、ハードでもソフトでもかなり対策は進んできていて、確かに住民の安全を守ることに貢献してはいますが、同時に、モノは破壊するということを忘れてしまっていたように思います。これは、モノに対する安全性への過信と依存するということによっていたのかもしれませんが。ものは、経年的には劣化しますし、外的作用が想定以上であれば、機能の低下につながるというのは、ごく当然のことだと思います。そして、自然災害は年々変化してきているために、その被害状況も規模、質ともに大きく変貌してきています。

したがって、最新の科学的知見やシミュレーションの結果を取り入れながら、過去の経験から学んだ知識をベースに避難の在り方や警報の伝達方法などを工夫していく必要があります。いままでの経験から感じていることとして、避難については、警報が出た段階で避難開始ということで行政などでは、自主避難を促すと同時に地区を回って強制的にバスなどで半強制的に避難させるとか、地域での集合場所を決めて、集団で避難するというようなことしていく必要があるのではないのでしょうか。そのためにも、地域で個々の情報を周知しておくことが大事だと思います。情報についても、早めの伝達ができるように手順を再考する必要があると思いますし、情報は自治体に入ってから、判断、伝達するまでの作業の簡略化とフェースセーフ的な仕組みを考えないと、現実には人手不足と混乱で、十分に業務が果たせない状況になると思います。それから、これからは防災に対しての考え方を変えていかないといけないのではないかと思います。というのは、災害のたびに想定外を言っても先に進まないのです、これからは想定外のことを想定内にして対応することをしていくことが必要だと思います。つまり、リスクを特定して、どうするのかということで、ハード対策とソフト対策をうまく組み合わせていくシステムを開発する必要があると考えています。

また、災害が発生すれば、当然、被害箇所や区間を復旧することになりますが、そのことで対象にならなかったところや隣接区間や地域が相対的に次の災害のターゲットになるということを避けなければなりません。そのためにも、適切な発生のメカニズムを調査して、結果を活かすようにすることが基本ではないのでしょうか。緊急を要するとはいえ、復旧には総合的な視点から機能とコストを勘案することが求められていると思います。

これからの防災は、科学的な研究成果に加えて、様々な知恵や工夫が求められていると思われれます。特に、経験から学習したことをベースにした、多くのものが埋もれているような気がしています。そのようなことを活用できるような作業が必要な気がします。その辺は、多くのNPOの力を借りて整理して伝えることをしていきたいものと考えています。おそらく自然災害は、自然が悠久であり自然災害もなくなることはないわけで、わずかな経験や先人の知恵や遺産をいま一度、新たな対応方法を構想して早めの適切な避難ができるように腐心しなければならないと思います。